

# 静岡県立三島北高等学校 令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録

記録者 副校長

- 1 開催日時 令和7年11月7日(金) 午後2時から4時まで
- 2 開催場所 静岡県立三島北高等学校 応接室
- 3 出席者
  - (1) 令和7年度 学校運営協議会委員(4名、敬称略)  
出席…鎌塚優子、内田新一、千葉慎二、高橋健二  
欠席…土屋賢太郎、渡邊康男、海野祐一
  - (2) 学校代表(4名)  
出席…松下明子(校長)、勝間田浩文(副校長)、吉瀬裕也(教頭)  
飯田実(事務長)
- 4 議事(次第)
  - (1) 校長挨拶
    - ・交通事故について  
先週、本校生徒が横断歩道を歩行中に交通事故に遭うという事案が発生した。これを受け、生徒課長より「横断歩道であっても油断せず、周囲に十分注意するように」と全校生徒に対して注意喚起が行われた。
    - ・インフルエンザ等による学校閉鎖について  
感染症の流行により、全校生徒の約23%が罹患し、3日間の学校閉鎖措置を取った。感染拡大の背景には、10月中旬の台湾修学旅行後からインフルエンザの流行が始まり、10月30日のルームマッチを契機に一気に広がった。本校は広範囲からの通学者が多く、もともと感染症リスクが高い環境にある。行事の意義は大きいが、感染防止に対する慣れや油断があった可能性も考えられる。
    - ・悪天候への対応について  
9月5日に台風15号が接近した際、本校は前日の段階で休校を決定した。一方、多くの公立高校では通常通り授業を実施し、結果として帰宅困難となつた生徒が多数発生した。この事例を受けて、県教育委員会からは「悪天候時には早めの判断を行い、必要に応じて出席停止措置を取ること」との通達があった。加えて、オンラインによる単位認定の活用も徐々に広がりつつある。
  - (2) 授業見学  
6限の授業を見学した。

(3) 学校の教育活動について

- ア 本校の教育活動に関する中間報告 [副校長 教頭]
- ・インスタグラム、新聞掲載記事を用いての学校行事の紹介  
(紫苑祭、三島サンバ、海外研修、海外修学旅行 他)
- ・今年度は初めて台湾での4泊5日の修学旅行を実施した。陽明中学校との交流では、事前の交流会をオンラインで行うなど英語での対話を通じて異文化理解を深めた。大学生との市内研修や班別活動では、現地文化や歴史に触れ、生徒の主体性と協働力が育まれた。一方で、インフルエンザ発症による緊急対応が課題となり、今後の健康管理体制の見直しが必要。
- ・探究学習について今年度も三菱みらい育成財団の助成事業に採択された。また、行きたい学校づくり三島・田方地区探究学習拠点校に指定されている。これらの事業を通して外部講師との連携や校内コンテストの充実、校外へのコンテストへの積極的な参加を促している。さらには、地域コンソーシアム構築や「思考ツール」活用による授業改善も進めている。
- ・部活動の成績について  
運動部ではすべての部活で県大会に出場、陸上部が東海大会に出場。  
文化部では箏曲部、科学部、新聞部、郷土研究部、英語ディベート部が全国大会に出場。音楽部が関東大会に出場。

イ 本校の教育活動に関する質疑・意見交換

○探究について以下のことを報告 [副校長]

現在、企業と連携しながら三島田方地域の高校をつなぐ拠点校としての役割を担っている。各校の探究リーダー向けに勉強会を実施し、探究活動の質向上を図っている。

12月にはNPO法人クロスフィールズの藤原氏を招き、VR体験を通じた探究活動を本校で実施予定。また、校内では思考ツール活用に関する教員研修も行っている。

○施設の老朽化について以下のことを報告 [事務長]

空調設備：エアコンの性能が低下しており、教室移動とスポットクーラーのレンタルで一時対応。

更新の課題：設備更新を希望するも、予算の確保が困難。

インフラの老朽化：水道・電気設備も古く、改善が必要。

プール設備：漏水により授業が実施できず、水泳部は三島南高校で練習を継続中。

○暑さ対策 [校長]

近隣の学校では、制服をポロシャツに変更したり、私服登校を導入したりするなど、柔軟な服装規定を採用している例が見られる。

今後の方針として、本校独自の対策を検討する必要がある。

○生徒減少について [校長]

将来的には三島田方地区にある高校が将来的には現在の8校から4校になる。専門分野の特殊性を維持するのが難しくなる。三島田方と限定しないでもっと広い範囲で考えるとよいかも知れない。

○修学旅行について [教頭 副校長]

- ・現在の4泊5日では、体調を崩す生徒が増加しているため、3泊4日への変更を検討中。
- ・海外での緊急対応や保護者との連絡体制に課題がある。

○三菱みらい育成財団 カテゴリー1 「心のエンジンを駆動させるプログラム」(令和6年度助成開始～8年度まで)

対象校専用「学校魅力化評価システム」アンケート結果から本校の伸びしろについて [各委員から]

- ・住んでいる地域で働きたいと思う生徒が少ないので心配である。
- ・伸びしろ部分については北高に限ったことではないと思う。
- ・ボランティアになぜ関わらないのか質問項目の中で理由を聞いてもいい。
- ・高校生は忙しく時間がない部分もある。
- ・質問の聞き方も悪いかもしない。「学校外のいろいろな人に話を聞きに行く」となっている。本当に調査したいことは何かこの質問ではわからない。何のための質問か、具体例などがあってもよい
- ・質問の意図が生徒自身がわかっていないのかもしれない。それによって自分にとって何がよいのか。なぜ大事かがわかると自分で動くようになるのではないか。
- ・「伸びしろ」というと残念な印象だが、それが生徒にとって悪いことであるとは限らないのではないか。
- ・将来が明るい も年代によって考え方方が違う。どうなれば「明るい」のか考え・意見を聞いても良いのではないか。
- ・自己認識、ウェルビーイングの主体性はどんな質問か？
- ・三菱みらいに学校運営協議会では以上のような意見が出たことを伝えたらしい。

○地域とのかかわりについて [各委員から]

- ・いろいろな行事に関わってもらっている。好感が持てる。
- ・お行儀が良い。
- ・もっと積極性がでるとよい
- ・お祭りにも参加してくれる。大人との関りが出てくるので、いいこともあるが、大人も祭りだと羽目を外すこともあるので心配な面もある。
- ・学校外での解放感に対しての気配りも必要か。

5 その他

(1) 会議日程の確認

第3回 令和8年2月6日（金）午後2時（主な議題は学校自己評価）

(2) 御意見・御感想の依頼